明治時代① ＜俯瞰図 pt.18＞

	政治	外交	反政府勢力	経済
新政府の発足	1868年 五箇条の(御)誓文（新政府の基本方針）to 諸外国 1868年 五榜の掲示（民衆の心得を表す5種の高札）to 庶民 1868年 政体書（新政府の政治組織を定める）政治体制を発表		1868年 鳥羽・伏見の戦い（戊辰戦争の開始）→ ↓ 1868年 江戸城の無血開城 ↓	1868年～不換紙幣の発行 太政官札（1868） 民部省札（1869） 不換紙幣の発行
中央集権化の推進	1869年 版籍奉還（藩主が土地と人民を天皇に返上） 薩長土肥の4藩主が奉還→旧藩主を知藩事に任命 ↓ 1871年 廃藩置県（全国の藩を廃止して県を設置） 薩長土の3藩から集めた(御)親兵の兵力を背景に断行 →知藩事を罷免して東京に居住→府知事・県令を派遣	四民平等 日本・清・朝鮮で提携して 欧米列強に対抗していこう！ 1871年 日清修好条規（対等条約） 1871年 岩倉使節団の派遣→ 岩倉具視（公家）・大久保利通（薩摩） 木戸孝允（長州）・伊藤博文（長州）	1871年～留守政府の統治（岩倉使節団外遊中） 西郷隆盛（薩摩）・江藤新平（肥前） 板垣退助（土佐）・後藤象二郎（土佐）	1871年 新貨条例（貨幣制度を統一） 建前上の金本位制を採用 →実質的には金銀複本位制
富国強兵の推進(軍事・財政)	1872年 徴兵告諭（徴兵令の意図を説明） →血税一揆（徴兵に反対して起きた農民一揆） ↓ 1873年 徴兵令（国民皆兵を理念とする）→ 満20歳以上の男子に3年間の兵役を義務づける 1873年 地租改正条例（財源安定と近代的税制確立のため） 土地所有者に地券を発行し，地価の3%を金納させる	士族の不満 1873年 岩倉使節団の帰国 ⇩ 内治優先論(国内整備優先) VS	日本の開国要求を朝鮮が再三拒否 ⇩ 征韓論(武力による朝鮮開国論) but 征韓論争で敗北 ⇩ 1873年 明治六年の政変（征韓派が一斉に下野）	1872年 国立銀行条例 銀行に紙幣の正貨兌換義務 ①言論で政府に抵抗 ＝自由民権運動 ②武力で政府に抵抗 ＝不平士族の反乱 不換紙幣の回収＋兌換紙幣の発行
政府・反政府勢力の対立	1875年 大阪会議（板垣退助・木戸孝允が参議に復帰） 1875年 讒謗律・新聞紙条例（政府批判を禁止） 1876年 廃刀令（士族の帯刀を禁止） 1876年 秩禄処分（華族・士族への家禄の支給を全面廃止） 1876年 地租改正反対一揆（茨城・三重・愛知・岐阜・堺） ↓ 1877年 地租を地価の3%から2.5%に軽減	1874年 征台の役（台湾出兵） 反対した木戸孝允が下野 懐柔・弾圧 1875年 江華島事件（日本軍艦の挑発） ↓ 1876年 日朝修好条規（不平等条約） 反発	1874年 民撰議院設立建白書（国会開設要求） →自由民権運動の勃発 1874年 佐賀の乱（江藤新平が首領） 1874年 立志社（土佐で板垣退助らが結成） 1875年 愛国社（大阪で立社社を中心に結成） 板垣退助が参議に復帰したため解散 自由民権運動の停滞 1876年 神風連の乱・秋月の乱・萩の乱 ↓ 1877年 西南戦争（西郷隆盛が首領）	1876年 国立銀行条例改正 紙幣の正貨兌換義務を削除 →153行が不換紙幣を発行 1877年～不換紙幣の増発 不換紙幣の再発行

© Rudenkaiweb（ルデンカイウェブ）
コピー禁止（無料版）